議事録

委員会名	第3回品川区消防団運営委員会																																																				
日時	令和7年1月22日（水）10時00分から10時29分まで																																																				
場所	品川区役所 第二庁舎4階 災害対策本部室																																																				
諮問事項	「変化する社会情勢に適応し、特別区消防団の組織力を向上させ、住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」																																																				
出席者	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%;">品川区長</td> <td style="width: 33%;">森澤 恭子</td> <td style="width: 33%;">（委員長）</td> </tr> <tr> <td>大井消防署長</td> <td>草野 正孝</td> <td>（委員長職務代理）</td> </tr> <tr> <td>衆議院議員</td> <td>阿部 祐美子</td> <td>（委員）</td> </tr> <tr> <td>区議会議員</td> <td>石田 しんご</td> <td>（委員）</td> </tr> <tr> <td>区議会議員</td> <td>おぎの あやか</td> <td>（委員）</td> </tr> <tr> <td>区議会議員</td> <td>松本 ときひろ</td> <td>（委員）</td> </tr> <tr> <td>区議会議員</td> <td>松永 よしひろ</td> <td>（委員）</td> </tr> <tr> <td>区議会議員</td> <td>ゆきた政春</td> <td>（委員）</td> </tr> <tr> <td>品川防火防災協会会長</td> <td>金子 正秀</td> <td>（委員）</td> </tr> <tr> <td>大井防火女性の会会長</td> <td>小野 悦子</td> <td>（委員）</td> </tr> <tr> <td>荏原防火防災協会副会長</td> <td>越智 克巳</td> <td>（委員）</td> </tr> <tr> <td>産業カウンセラー</td> <td>小口 優子</td> <td>（委員）</td> </tr> <tr> <td>品川消防署長</td> <td>矢野 英一</td> <td>（委員）</td> </tr> <tr> <td>荏原消防署長</td> <td>落合 博志</td> <td>（委員）</td> </tr> <tr> <td>品川消防団長</td> <td>大谷 敏子</td> <td>（委員）</td> </tr> <tr> <td>大井消防団長</td> <td>武藤 俊三</td> <td>（委員）</td> </tr> <tr> <td>荏原消防団長</td> <td>吉田 敬一</td> <td>（委員）</td> </tr> </table>		品川区長	森澤 恭子	（委員長）	大井消防署長	草野 正孝	（委員長職務代理）	衆議院議員	阿部 祐美子	（委員）	区議会議員	石田 しんご	（委員）	区議会議員	おぎの あやか	（委員）	区議会議員	松本 ときひろ	（委員）	区議会議員	松永 よしひろ	（委員）	区議会議員	ゆきた政春	（委員）	品川防火防災協会会長	金子 正秀	（委員）	大井防火女性の会会長	小野 悦子	（委員）	荏原防火防災協会副会長	越智 克巳	（委員）	産業カウンセラー	小口 優子	（委員）	品川消防署長	矢野 英一	（委員）	荏原消防署長	落合 博志	（委員）	品川消防団長	大谷 敏子	（委員）	大井消防団長	武藤 俊三	（委員）	荏原消防団長	吉田 敬一	（委員）
品川区長	森澤 恭子	（委員長）																																																			
大井消防署長	草野 正孝	（委員長職務代理）																																																			
衆議院議員	阿部 祐美子	（委員）																																																			
区議会議員	石田 しんご	（委員）																																																			
区議会議員	おぎの あやか	（委員）																																																			
区議会議員	松本 ときひろ	（委員）																																																			
区議会議員	松永 よしひろ	（委員）																																																			
区議会議員	ゆきた政春	（委員）																																																			
品川防火防災協会会長	金子 正秀	（委員）																																																			
大井防火女性の会会長	小野 悦子	（委員）																																																			
荏原防火防災協会副会長	越智 克巳	（委員）																																																			
産業カウンセラー	小口 優子	（委員）																																																			
品川消防署長	矢野 英一	（委員）																																																			
荏原消防署長	落合 博志	（委員）																																																			
品川消防団長	大谷 敏子	（委員）																																																			
大井消防団長	武藤 俊三	（委員）																																																			
荏原消防団長	吉田 敬一	（委員）																																																			
欠席者	まつざわ和昌（区議会議員）、懸田幹夫（大井防火防災協会会長）																																																				
傍聴者	0名																																																				
配布資料	次第、委員名簿、座席表、答申（案）																																																				
審議内容																																																					
事務局 （品川区）	<p>（配布資料の確認） （「東京都情報公開条例」に基づく情報公開の説明）</p> <p>1 開会 次第に沿って進めさせていただきます。初めに委員長挨拶をお願いいたします。</p>																																																				

<p>委員長</p>	<p>2 委員長あいさつ</p> <p>本日はお忙しいところ品川区消防団運営委員会にご出席をいただきありがとうございます。消防団の皆様におかれましては、区民の安全安心のために日夜活動いただいております。改めてこの場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございます。品川区といたしましても、引き続き区内3消防団の充実強化に向けた取り組みを進めてまいりたいと考えております。本委員会におきましては、都知事からの諮問事項「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」を受け、これまで2回の審議を重ねてきたところでございます。本日の第3回におきましては、これまでの審議結果を踏まえ、品川区としての方針を決定したいと考えております。限られた時間でございますが、忌憚のないご意見をいただけますようお願い申し上げます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。</p>
<p>事務局 (品川区)</p>	<p>3 議題(変化する社会情勢に適応し、特別区消防団の組織力を向上させ、住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか)</p> <p>事務局から説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局 (消防署)</p>	<p>本日の第2回品川区消防団運営委員会の資料についてご説明いたします。諮問事項を繰り返し申しますが「変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」です。この諮問について第1回・第2回と課題を分け検討を進めました。</p> <p>第1回は令和6年2月7日に行われております。第1回では本諮問の住民の負託に応えることについて、災害時、特に大規模災害時に消防団が主体的に活動していくことであると考え、課題を2つに分けて検討を進めました。第2回は令和6年7月24日に行われました。地域防災の中核として、社会の変化に柔軟に対応し、成長していくために必要な事項の検討を進めました。第2回・第2回と検討を進め、委員の皆様からいただいたご意見を答申案2ページから6ページ項目の5・6に記載しております。本日は皆様からいただいたご意見をまとめたものをご説明させていただきます。</p> <p>それではまず第1回で検討した課題1について説明いたします。答申案の6ページの7番をご覧ください。住民の負託に応え続けるためには、災害に対応するための実践的な訓練と計画的な人材育成方策が必要ではないかということで検討を進めました。実践的訓練の実施の方策として、まずは消防団操法大会の見直しについてご意見をいただきました。こちらは競技色の強いものばかりではなく、審査会形式で災害対応能力を競うものも実施するというご意見をいただきました。そして平素の訓練についても、火災対応はもちろん首都直下地震に対応すべく、救出救助訓練を取り入れるべきということでご意見をいただきました。</p>

続きまして計画的な人材育成方策です。こちらは6ページの最後の行から記載されております。こちらは教育資機材の充実としまして、まずはタブレット端末の拡充及び使用方法講座のご意見をいただきました。増設後も様々な分野を場所を問わない、オンライン教養による人材育成の充実機会についても触れております。資格取得についてもご意見をいただきました。資格取得支援や資格者の活躍できる未来についても示しております。

続きまして消防団を住民により知ってもらうための方策です。こちらは7ページ中央「イ」からの記述になります。広報関係についてご意見をいただきました。まず可搬ポンプ積載車についてです。こちらは災害はもちろん消防団の広報媒体として使うため、訓練、演習、イベント等での積極的な運用を示しております。消防団の様々な場面での活躍をSNSはもちろん地域の広報誌でも掲載していただけるよう、地域と密接になるよう、地域行事等に積極的に交流していくよう示しております。

続きまして第2回の課題について説明いたします。こちらは8ページの先頭からの記載になります。地域防災の中核として、社会の変化へ柔軟に対応し、成長していくことが重要であると考え、こちらを達成するために、組織の活性化方策と活動環境の改善方策について皆様からご意見をいただきました。課題1と同様に皆様のご意見をまとめましたので説明いたします。まず組織の活性化方策についてです。組織の活性化には、まずは組織が属する地域に周知されていることが必要です。団員一人ひとりが地域を知ることが必要であり、地域から求められることを実践していく必要があります。消防団として地域に貢献できることを検討できるように消防団に助言していくよう示しております。

続いて報酬です。人材育成及び確保の必要性から、報酬の増額について示しております。報酬に関連して地域特性に応じた特典を付与し、消防団員の入団促進、定着につながるよう示しております。そして未来ある組織の維持のために活躍し続けるための方策と子供たちへの広報について示しております。

最後になります。活動環境の改善方策についてです。こちらは8ページ下部「イ」の部分から記載されております。まずは訓練環境です。消防団員にとって訓練場所は必要不可欠なものです。こちらを示しております。続いて震災対策です。教養資機材の充実強化等でお示したタブレットを震災時に活用するほか、救助資機材の充実強化をお伝えしております。震災に関連して団本部の防災拠点としても使用するため太陽光パネルを備え長期的な活動を支える拠点となるよう示しております。これら震災対策の資機材・訓練を管理する専門部署を設けること等により、活動環境が良くなるということを示しております。

最後にまとめです。本委員会での検討結果を生かして人材育成・人材確保に重点を置いた組織の活性化、これと継続できるタイムリーな活動環境の改善を要望して諮問への答申とすることを旨として記述しており

	<p>ます。これでまとめとしております。答申案の説明については以上となります。</p>
委員長	<p>説明を終えました、ただいまのご説明についてご意見ご質疑ありましたらよろしく願いいたします。ご発言がないようですので、以上で本日予定した審議を終了いたします。進行を司会に返します。</p>
事務局 (品川区)	<p>ただいま審議された答申案につきましては事務局の方で取りまとめでいただき、しっかりと都のほうに返していただきたいと存じます。また最後ですけれども何かご意見・ご発言等、只今の中でございませんでしょうか。今の内容で人材育成・人材確保また消防団の環境整備、第1回・第2回、そして本日までを含めていろいろ皆様のご意見をいただいた内容は、取りまとめられた内容が答申として東京都のほうに答申される予定でございします。もしこの後何か追加するというのは非常に難しい状況でございしますけれども、しっかりとこの答申を事務局の方へ取りまとめて出ささせていただきますと存じます。</p>
委員 A	<p>先日、各消防団の活動また消火活動にご尽力された方の表彰式の時にやっぱり感じたのは、みんなユニフォームを着てきちっときめている、さすが消防団員だという、そういうスタイルを公に皆さんにもうちょっと見ていただきたい。マスコミを通じて、そういうスタイルを見るとああいう感じだったら消防団にちょっとなってみようかという、外見上ですけれども思うんじゃないかと思うので、そういう PR 活動ももうちょっと積極的にやるということも必要じゃないかなと思いました。</p>
事務局 (品川区)	<p>ただいま委員の方からですね、消防団の関係で活動に尽力いただいている姿、または制服等を着てしっかりと PR していくことが重要であると、見る機会をしっかりと与えてあげたいということでご意見をいただいたところです。これも、これまでの委員会の中で出た意見ではございしますけれども、しっかりと答申の中に入れて回答の方を東京都のほうにさせていただきますと思います。貴重なご意見どうもありがとうございました。その他、このご意見も含めまして、何かこの場でせっかくの機会ですので、消防団に対してご意見ご要望等がありましたらご発言いただければと存じますがいかがでしょうか。</p>
委員 B	<p>前回、ドローンの資格を消防団の皆さんにもとっていただいたらどうかということでお話しさせていただいて、他の委員の方から民間の事業者さんと連携したらどうかというお話が出ました。この場合ちょっと考えたんですけれども、消防団の皆さんというのは準公務員というお立場でいらっしゃいます。民間の事業者さんというのは、あくまでも民間ですので、もしその民間の方が駆けつけていただく場合にもし災害に巻き込まれて来れなくなったり、怪我をしたりとかっていう場合には区が保障するのかってところまでやはりちょっと考えていただいた方が良</p>

	いのかなと感じておりました、という意見でございます。
事務局 (品川区)	組織の活性化方策の1つで団員の能力も上げていくというところもあるかと思えます。ドローンの資格についてご意見をいただいたところで、民間との連携だとか、災害に巻き込まれた際の保証だとかというところも含めて、今回答申の中にどの程度まで含まれるかというのは事務局と調整をして進めて参りたいと存じますので、貴重なご意見どうもありがとうございました。その他ご意見等ご質問等ございませんでしょうか。
委員C	私も様々な消防団の方に関わらせていただいているんですけども、既に長く言われていることではあるんですけどもやっぱり各分団の拠点となります団庫がですね、やはり活動するにはなかなか厳しい状況のところはまだ品川区内でもいくつか残っております。そうしたところについて、この答申の中でも整備充実という言葉はあるんですけども、なかなかそれだけでは動いていない現状もありますので、より答申の中でどこまで触れるかはともかくですね、ぜひこの点は本気でやはり解決をしていかなければいけないという問題意識は常に持っております。東京都だけではなく品川区などにおいても公共施設の建て替え等にあわせてですね、ぜひ難しいとは思いますが、今の活動がしにくいいくつかの団については早急に強力な改善をぜひ区長さんもいらっしゃいますのでお願いしたいと思います。
事務局 (品川区)	只今の消防団倉庫に関する要望というか、ご意見をいただいたところでございます。こちらは答申の中でもですね、訓練環境というところまたは活動環境の改善というところで、おっしゃる通り、一定程度触れられていこうかと思えますけれども、やはりあの品川区におきましても消防団の活動拠点である団倉庫については、非常に厳しい団もあるというふうに伺っております。またこちらについては品川区だけではなく、東京都とも連携しながらやっていかなければならないと認識をしておるところですが、今回の答申案についてどこまで入り込めるかというのも含めまして改めて進めさせていただければと感じております。大変貴重なご意見ありがとうございました。その他ご意見ご要望等ございませんか。
委員D	先程の委員AのPRをもう少しもっと力を入れていったらどうかという意見と少し同じ方向性になるんですが、秋に開催しています品川の消防団合同点検、こちらの方は品川ケーブルテレビなどで中継などはされていらっしゃるのでしょうか。質問になってしまいます。ありがとうございます。秋の点検を私も3回拝見させていただいてるんですが、特に秋の中央公園で行われます、非常にしっかりと東京都でこういった震災が起こった場合の被害件数だったりとか、風が風速何メートルであった場合としっかりと設定された上で、救助から火災が発生して、そこをまた鎮

	<p>火という一連の流れを非常に素晴らしい訓練だなと思って、すごい感心して拝見させていただいているんですが、ぜひあれを区民の方にも臨場感ある訓練ですので、1人でも多くの方に見ていただきたい。品川区の災害が起こったときに、こんな危険があつてこういった消防団が活動しているという閉じ込めから、消火まで知っていただいて、区民としても日々どうやって気をつけていくのかというすごく啓蒙になると思いますので、ケーブルテレビには中継されているという事ですね、なんかやっぱり中継してますよっていうことをまた広報につなげるということですね。そういった周知の方法等いろいろ検討してPRに私も力を入れていただきたいなと思っております。</p>
<p>委員 A</p>	<p>さっきのPRということなんですけれども、私が所属している地域センターで、いろいろ区民の行事をやってるんですが、例えば防災訓練だとか、それから消防関係のいろんな行事とかですね、そういう時に大体興味を持って参加していただく方が限られている。一番我々の段階で区民行事としていろんな人が集まるというのは区民祭りじゃないかと思います。若い方からお年寄りの方まで、いろんな階層の人が来て特に防災という頭でなくとも来られているわけなので、一応我々の地域センターの中で、今回防災訓練と区民祭りをですね、同時開催をしようという今案が出てそれをやりたいと。そうすると例えば防災だとか消防団だとかいろんなそういうことだけに関係する方以外が集まってくるので、これは良い機会じゃないかという我々検討してますので今年の秋にはですね、そういった合同の防災訓練あるいは消防団のPR活動と一緒にですね区民祭りをやって、区民祭りに来た子どもさんから老若男女含め、そういうことに興味を持っていただくと、そういう行事を考えてますので、参考になればと思います。</p>
<p>事務局 (品川区)</p>	<p>お二人の委員から貴重なご意見ありがとうございました。全体の委員Dのご意見っていうのはPRの事、3消防団の合同点検に品川区で行っているものとなりますけれども、こちらの方ですね、区の方でも広報しながらの方でアピールさせていただくとともに、会場の一般の方の視察はできるというふうに伺っております。こちらも改めて次年度の内容についても広報させていただくとともに、多くの方にそういった機会、勇猛な姿を見ていただけるような機会を作ればと考えております。また委員Aからいただいた地域センターの防災訓練につきましても、地域で防災訓練につきましても非常に消防団の皆様にご協力をいただいております、消火訓練の指導であるとか、AED 応急手当の指導だとか、非常にそういったところで、存在感を出していただいているというのが区の見解でございます。そういった中で消防団の姿を、またお祭りというようなものと防災訓練を融合したもので、多くの方がいらっしゃる中でのそのまま消防団のPRがで</p>

	<p>きるような状況が作れるよう区としてもサポートしていければと考えております。</p>
委員 E	<p>うちの業界ですとね年に 1 回防災訓練やってるわけですよ。講師として消防団の方とか協力してもらってるんです。講習が終わった後に消防団のビデオを最後に見せてもらったら PR となると思うのですがいかがでしょうか。一部の方しか、消防団の方に関しては知らないと思うのですよ。もう少し幅広く宣伝するだったらそういう場合に紹介ビデオか何か見せてもらったほうがわかりやすいと思いますのでいかがでしょうか。</p>
事務局 (消防署)	<p>実際にそのやったもののビデオもそうですし、東京消防庁の方でも、消防団の活動について、わかりやすい広報資料等を作っておりますので、その辺りの動画の資料とかですね、お伝えできるようにすることはできると思います。</p>
事務局 (品川区)	<p>5 閉会 その他ご意見等ございますでしょうか。そうしましたらただいまのご意見を踏まえまして答申の方を進めさせていただきたいと思っております。以上もちまして、第 3 回品川区消防団運営委員会を閉会したいと存じます。皆様大変お忙しい中貴重なご意見承りつつ、またお忙しい中ご出席をいただきまして誠にありがとうございました。以上で終了いたします。</p>

令和7年1月22日

第3回

運営委員会資料

品川区消防団運営委員会

答申（案）

（第3回品川区消防団運営委員会 資料）

「変化する社会情勢に適応し、特別区消防団の組織力を向上させ、住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか」

品川区消防団運営委員会

1 諮問事項

変化する社会情勢に適応し、特別区消防団の組織力を向上させ、住民の負託に応え続ける方策はいかにあるべきか。

2 諮問の趣旨

特別区消防団は、地域になくてはならない代替性のない存在であり、地域防災力の中核として、住民の負託に応じてきたところである。

さらに、本年（令和5年）は、関東大震災から100年の節目の年であるなど、消防団への期待はさらに高まっており、東京の安全安心を守っていくためには地域防災力の中核である消防団が、将来にわたって更に充実し、消防団としての役割を果たしていく必要がある。

一方で、特別区においては、人口が2035年ごろに減少に転じ、2050年をピークに高齢化が進行すると予測されているほか、近年は、DXの進展によるテレワークなどの働き方の多様化や、単身世帯の増加による地域コミュニティの希薄化など、社会情勢は常に変化している。

このことから、各消防団や各区の特性なども踏まえながら、変化する社会情勢に適応し特別区消防団の組織力を向上させ住民の負託に応え続ける方策について諮問するものである。

3 審議期間

令和5年8月から令和7年3月末まで

第1回 令和6年2月7日

第2回 令和6年7月24日

第3回 令和7年1月22日

4 審議計画

諮問事項について以下の課題を抽出し、各課題について、検討事項を定め、審議を行いました。

(1) 課題1 第1回にて審議

「地域で活動力を発揮していくことで、住民の負託に応え続けることが重要である。」

ア 実戦的訓練の実施方法及び計画的な人材育成方策について検討する。

イ 地域に尽力している消防団を、住民により知ってもらう方策について検討する。

(2) 課題2 第2回にて審議

「地域防災の中核として、社会の変化へ柔軟に対応し、成長していくことが重要である。」

ア 組織の活性化方策について検討する。

イ 活動環境の改善方策について検討する。

5 第1回における課題・検討事項・各委員意見の要旨

課題：地域で活動力を発揮していくことで、住民の負託にこたえ続けることが重要である。

(1) 実戦的訓練の実施方法及び計画的な人材育成方策について検討する。

ア 実戦的訓練の実施方法

- (7) 消防団の役割を自覚し、その役割を果たせるような訓練を企画する必要があるため、災害対応や応急救護訓練の比重をあげたほうがよい。
- (8) 消防団操法大会の見直し及び全国大会と合わせた訓練をすべきである。
- (9) 消防団操法大会の在り方について、大会にかける労力の比重を勘案し、その在り方を見直す必要はある。しかし、これを目標に尽力している団員もいる。頻度を低くすると操法大会を中心に頑張っている方の出場機会が減る。これには、手当を見直すことにより、モチベーションを維持できるのではないか。
- (10) 消防団の各種訓練等による知識、技術、安全管理能力の向上が必要である。
- (11) 競技色を強くするものではなく、災害活動に即したものを実施する。

イ 人材育成方策

- (7) 各階級の役割を明確にするのはよい。しかし、臨機応変に代理や補佐をできるような仕組みを検討すべきである。
- (8) 優秀な指導員となり得る人材の発掘と育成が急務である。明確な目的意識を持たせた上で、安全な操法や救助方法を身体が覚えるまで、何度も繰り返し、反復訓練を実施できる指導員が求められる。
- (9) 消防団は公務の一端を担っており、オンライン等での基礎研修などが必要である。また、費用弁償、出場手当の拡充を検討する必要がある。
- (10) 現役世代の活躍のためには、時間、場所、方法などを検討する必要がある。一人一人に合わせた研修が必要である。
- (11) 「教養に関して、団員同士が進捗状況を共有できる媒体」に関して、とても素晴らしいことだと思うが、共有だけではなく、これに加えて「自己の到達状況」を確認できることが大事である。新たな資格の構成等は恐らく予算などもかかってくると思われるため、既存の防災士資格との連携ができればいいのではないかと、というようなご意見をいただくことがある。既存の防災に関する資格などと連携をした取組みも必要ではないか。
- (12) ドローンの操縦も研修プログラムに導入していただきたい。消防署とは別に、消防団として単独で行動しなければならない場合、現場での目視確認が非常に難しくなることが予想される。そのため、団長が指示を出す際に適切な判断ができない可能性がある。ドローンを使用して上空から現場の状況を把握すること

で、適切な指示を出し、効果的な行動が取れると考える。したがって、ドローンの操縦に関する研修や資格取得の導入を提言する。

(2) 地域に尽力している消防団を、住民により知ってもらう方策について検討する。

消防団を住民により知ってもらう方策

ア 祭礼やイベント等で警戒活動を実施しているが、そのような場で、町会の役員等地域住民と交流することも重要である。

イ 訓練や練習時における広報を実施する。「〇〇消防団〇〇分団 消防訓練中 見学自由 団員募集中」と書いた看板を出して、その横に募集のリーフレットを置いたりとかして、普段の練習、訓練のときからも、地域の方と近い関係を保つ。

ウ 町会の防火防災訓練で放水訓練を披露してほしい。町会員の消防団に対する考えが違ってくると思う。

エ 消防団の活動を町会や地域の情報誌に積極的に掲載したい。

オ SNSを通じて、消防団の活動を映像で可視化したほうが伝わりやすい。

カ 消防団を周知するために積載車の出場機会を増やすのは大事だが、既存の操法大会との関係で、操法大会がどうしても積載車を使わない大会だとするならば、なかなか積載車を使った訓練というものを充実させるのも難しいと思う。「出場回数を増やす」ということのみならず、訓練の在り方も、積載車を使ったものを考えていくことが必要ではないかと思う。

6 第2回における課題・検討事項・各委員意見の要旨

課題：地域防災の中核として、社会の変化へ柔軟に対応し、成長していくことが重要である。

(1) 組織の活性化方策について検討する。

組織の活性化方策

ア 消防団の存在や活動を知ってもらうためには、地域のニーズを調査・分析し、地域から求められることを実施していく必要がある。消防団として、地域に協力できることを検討し、実行することが大切である。

イ 人材育成とともに人材の確保が重要である。

ウ 特別区、特に品川区のような都市部において、消防団に本質的に何が期待されているのか、その消防団の意義が今一つ分かりにくいのではないかと思う。東京都の多摩地域や地方では、消防団が実際に火を消しに行くなど、社会に必要とされている存在だが、都市部では消防署より早く現場に到着して火を消すという役割を担っておらず、今後もそうではない。

そのため、消防団が本当にどのような役割を持っているのか、現在の活動とマッチしているのか、災害時に私たち消防団はどのような役割を期待されているのか、それに応えられるのかといったことを含めて、特別区の消防団としてのあり方やミッシ

ョンを考えていく必要がある。

エ 重機はより多くの方が使えるようになると良い。また、さまざまな専門分野、例えば心理やドローンなどの話があったが、これらも非常に重要である一方、経験が浅いと逆に危険になる可能性がある。

消防庁は、ドローンを非常に丁寧に運用しているが、誤操作により墜落して事故につながる可能性もあると考える。そのため、消防団員が直接資格を取得するだけでなく、そうした資格を持った団体や企業と日頃から提携し、災害時に優先的に駆けつけていただく、あるいは協力していただく体制も必要ではないか。この点については資格の話題からは外れるかもしれないが、一緒に取り組むことでより強力な体制が構築できるのではないかと考える。

オ 現在入団する方が非常に減っていることに大きな課題があるのではないかと考える。入団された方々は意外と継続していると思いますが、入団に至るまでの過程に大きな課題があるのではないか。

手当の充実を図り、インセンティブをしっかりと提供することが、入団者を確保する一つの方法だと考える。例えば、レジャースポットや子育て世代を巻き込むために、割引制度を導入することや、商店街と連携して消防団員証を提示することで割引が受けられるなど、地域を巻き込んだ取り組みを行うことが重要だ。これにより、地域の方々にも消防団を知ってもらい、入団した団員がメリットを感じられるシステムを構築する必要がある。一部の方からは「お金のためではない」との意見もあるが、現実的にはこういったメリットを感じられる方が増えることで入団者も増えるのではないかと思う。手当に関しては東京都の管轄なので、我々としても東京都に働きかけていきたいと考える。この機会に、そのような声があったことを伝え、入団しやすい環境作りに取り組んでいかなければならないと考える。

カ 町会の方々との連携も重要だ。消防団員が町会の訓練に講師として参加し、様々なことを教えることで、町会の方々に消防団の活動を知ってもらい、自分たちの身を守るための知識や技術を身につける機会を提供することができる。このような取り組みによって、消防団員がやりがいを感じられる活動を進めていくことができるのではないかと思う。消防団員に手当を支給することで、好循環を生み出す活動となると考える。

キ 感謝されることが大きなやりがいにつながると思う。講師や訓練をとおしてやりがいを感じたという話を聞く。

一方で、訓練中には感謝されるどころか、クレームが来ることが多い。訓練をしていると、周辺の住民から「うるさい」「騒がしい」「水が飛んでくる」といった苦情が寄せられる。町会の方々からは感謝されても、本来守るべき住民の方々からは感謝されず、むしろ不満が出てくることもある。この点については、第1回の会議で広報が課題として挙がったが、やはり周辺住民への周知が重要だ。訓練中に「お疲れ様です」

と言ってもらえることで、私たちもやりがいを感じることができる。しかし、現在はそのような状況ができていない。消防団が何をしているのかを地域の方々に伝えることが不足していると感じる。

この広報活動は区でもできることなので、東京都にもぜひ取り組んでいただきたいと思う。

ク 子どもの前で活動を行うことは非常に重要だと思う。私たちも様々な訓練に参加してるが、それは主に町会の方々が見ていられる中で行われる。例えば、小学校で放水訓練を行うと、多くの子どもたちに大人気になるのではないかな。

職業説明のような形で、荏原や平塚などで消防団の説明を行う際には、資機材を展示し、普段の活動を紹介している。しかし、子どもたちに一番興味を持ってもらえるのは、実際に火を消したりする場面を見せることだと思う。大人の方には当たり前のことかもしれないが、子どもたちにとっては非常に盛り上がる場面になると考える。そのため、子どもたちを対象にした活動を増やし、消防団員としてのやりがいを感じてもらうことは非常に良いことではないかと考える。

(2) 活動環境の改善方策について検討する。

活動環境の改善方策

ア タブレットや無線は本団や分団にあって個人には配置されていない。タブレットは私物のスマホとは繋げてはいけない、繋がらないという形になっている。これは色々なデータ流出などを考慮して私物とは切り離しておくということだが、実際に災害になった時にタブレットの周りに人が集まっていないと情報伝達ができないとなると、これはかなり制約された情報伝達手段になってしまう。組織で集団として動く以外は想定しないと言われればそれまでだが、様々な災害時を想定すると、何らかの個と繋がるような仕組みを持っていかなければいけないと思う。そのあたりの整備をやっておき、かつさっきの2台目のタブレットのように、それを支えるだけの機材を作っておかないと、なかなか訓練と同等のことが災害時にはできないのではないかなという風にも考えられる。そうしたことを東京都で考えるのか、それとも消防署なのか、そこから整理をしなければいけないと思うが、ぜひ災害時にこの情報伝達のネットワークにどのように個が関わっていくのか団員が関わっていくのかということも合わせて視野に入れたらいいのかと考える。

イ 活動の場所の確保が課題となっている。東京都や各区でしっかりと場所を確保していく必要がある。大きな通りを封鎖することは難しいかもしれないが、区道の一部を住民の方々の理解を得て使用することは可能かもしれない。このような部分も含めて、取り組んでいただきたいと考える。

ウ 学校のイベントやPTAなどに働きかけることで、町や地域を守ることはもちろん、子どもたちを守るという点でも、お父さんお母さんのモチベーションになると思う。そのような場で広報活動を行うのは非常に効果的ではないかと思う。

- エ 各分団本部等の整備充実化を進めたい。
- オ 訓練実施場所を充実させたい。やりがいや意欲があっても訓練の場所がなくては、どうしようもないのではないか。
- カ 太陽光パネルのところで提案させていただきたい。太陽光発電設備が最近急激に増加しており、住宅、ビル、小学校の屋上などにも設置されているのを見るようになった。東京都でも2025年4月から新築住宅への太陽光発電設備の設置の義務付けが開始され、品川区においても、0カーボンシティ品川宣言ということで、太陽光発電設備、再生可能エネルギーの導入を推進していくという方向だが、一方で、この太陽光発電のパネルが損傷した場合、本年1月に能登半島の地震が起きた時にも太陽光発電の設備が広範囲にわたり多数破損して、太陽光パネルは破損や浸水した場合でも日光が当たれば発電を行い発電し続けるので、そういった時に感電したり火災が起きたりする2次災害が懸念される。火災時の消火では通常より距離を取る、または感電に気をつけなければならないといった破損した太陽光パネルの取り扱いについて、国や製造業者が事業者向けにガイドラインは作成していると思うが、消防団員の感電や怪我がないように、刻々と変化する都市部の環境に合わせた情報の共有や周知徹底、あとは各団員への配置資機材として電気を通さない絶縁の手袋など、そういったものも検討すべきと考える。
- キ タブレットだが、災害等の実戦的な取り扱い要領を確認し、団員が資器材に対する不安をなくすべきではないか。
- ク 団本部の下に、新たに安全管理や訓練方法の企画立案、資機材の管理等を行う、専門の部署を設けることを提案する。また、長時間の救助活動への対応として、充電池を使用した高出力ハンマー等の救助用資機材の活用を提案する。

7 答申案

(1) 課題1

「地域で活動力を発揮していくことで、住民の負託に応え続けることが重要である。」

ア 実戦的訓練の実施方法及び計画的な人材育成方策について以下のとおり提言する。

消防団としての役割を自覚し、その職責を果たせるよう実戦的な訓練を積み重ね、知識及び技術の向上を図れる環境を構築するため、以下のとおりとする。

まずは、消防団操法大会の見直しについて、現在は競技色が強く作法が重視された部分がある。これにモチベーションを感じている団員もいるため、従来のものを隔年で実施しつつ、間に審査会形式で災害対応能力を確認するものを実施するなど実災害に対応できる団員、すなわち地域に貢献できる団員を育成する。

平素からの訓練についても、災害を意識した訓練を実施する。火災対応はもちろん懸念されている首都直下地震に対応すべく救出救助訓練を充実化させる。何より身近に起こりえる事故等に対応した応急救護訓練の充実化を推進する。

続いて、人材育成方策である。DXが充実しており、タブレットを活用したオンラ

イン教養等を実施している。さらなる充実化に向けて、まずはタブレット端末の拡充及び使用方法講座の開催を推進する。まずは絶対的に数を増やし、使用しやすい環境を構築する。誰もがいつでも使える環境を整え、オンライン教養を積極的に行うことにより、必要な知識を養い人材育成につなげる。

タブレットの充実化が実現した後は、ソフト面の強化を図る。ソフトは誰もがわかりやすい動画形式でいつでも閲覧できるようにする。災害別に活動要領はもちろん、災害に即した訓練要領、指導要領、安全管理要領を掲載し、知識・技術の向上を図る。また、特別職公務員であること等を説明した倫理教養、消防団の組織解説、階級ごとの役割や礼式等を掲載し、基本的な教養を完結できるようにする。この形式により、現役世代は時間、場所を問わず自己の都合による教養が可能となり、入団に対する敷居が低くなると思料する。

研修が充実強化されてきたら、資格取得を団員に意識させる。団員の知識、技術が「資格」という形になるよう「防災士」や時代のニーズに合わせた「ドローン」など防火防災に関連する資格取得支援を推進する。そして、資格取得に積極的な団員は、地域の防火防災訓練や救命講習等の指導員に携われるような環境を構築し、資格が生かし続けられることはもちろん、指導者としての腕を磨き続けられるようにする。

そして、これまで挙げた団員の活動、教養などあらゆる消防団活動に対し、実施場所を問わず手当支給の対象とすることで教養を受ける意欲を向上させる。

イ 地域に尽力している消防団を、住民により知ってもらう方策について検討し、以下のとおり提言する。

平素から消防団は、町会・自治会の防火防災訓練等で訓練指導を実施している。訓練指導時は、積載車を積極的に運用し、精強かつ機動力のある消防団を広報する。そして、指導ばかりでなく、消防団の放水等の活動を披露することにより、地域住民に消防団の活動を知ってもらえと思料する。何より積載車の運用機会を増やすことにより、消防団員の意識の中に「積載車がなくてはならない存在」であることを浸透させる。

防火防災訓練ばかりでなく、祭礼等町会・自治会の行事に警戒活動として携わることはもちろん、地域住民として積極的に交流していくよう団員に周知する。

消防団が自己の訓練に励んでいることも重要な広報ポイントであることを忘れてはならない。訓練風景は、広報において絶好の機会であることから「〇〇消防団 消防訓練中」といった広報看板を設置し、近隣住民へ活動を広報するよう団員に周知する。

これらの広報は、町会・自治会を通じ地域の広報誌等の媒体はもちろん、自らのSNSで映像による広報をさらに推進する。

(2) 課題2

「地域防災の中核として、社会の変化へ柔軟に対応し、成長していくことが重要である。」

ア 組織の活性化方策について検討し、以下のように提言する。

組織の活性化には、まずは、組織が属する地域に「周知」されることが必要不可欠である。周知には、組織に属する団員一人一人が地域を知ることが必要である。地元ということに甘んじることなく、常に地域ニーズを調査・分析し、地域から求められることを実施していく必要がある。まずは消防団として、地域に貢献できることを検討できるよう消防団に助言していく。

次に、組織を構成する「人」についてである。人材育成を推進しつつ、人材確保方策の一環として、報酬の増額見直しを提言する。生業を持ちつつ、消防団に尽力することは並々ならぬ覚悟を持っていることは想像に難くない。「課題1 ア」でも手当支給に関して述べたが、団員が減少していることに歯止めをかけ、かつ優秀な人材確保のためには、報酬面において再考する必要があると思料する。

地域に強い団員を募集育成するには、地域特性をおおいに活用すべきである。地域特性に応じた特典を団員に付与することにより、地域の団員の入団促進につながると考える。

最後に、組織の維持についてである。組織の活性化には組織が活躍し続けることが必要である。活躍し続けるためには組織が地域防災の中核であり続ける必要があることから、特別区消防団として、多摩地区とは違ったニーズに応え続ける必要がある。その一つとして、首都直下地震が危惧される中での救出救助活動が挙げられる。震災対策資器材の充実化と現団員に対し新たな資格取得を推進しつつ、重機等を使用できる地域企業への大規模災害団員の募集を強化する。

これらの活動は、積極的に団員自ら広報する。救出救助訓練を重ね、得た知識・技術は、町会自治会に講師として教養し、地域防災の中核であることを示すとともに、団員の意識の向上をねらう。また、子どもたちへ消防団の活躍を広報し、未来の地域防災リーダーの育成にも寄与する。子どもから働き世代の理解を得ることにより、入団につながれば、多くの現役世代の消防団が誕生することが期待できる。

イ 活動環境の改善方策について検討し、以下のように提言する。

消防団の訓練には、「場所」が絶対的に必要である。防災公園の整備など消防団が訓練に専念できる環境の改善を関係機関に働きかける。

懸念される首都直下地震に対し、先の「課題1 ア」の人材育成方策で述べたタブレット端末の充実化が活動環境の改善方策にもつながると思料する。震災時、より開かれた通信手段を確立し、効率的かつ映像による鮮明な情報伝達手段が構築されれば、効果的な活動が期待できる。

消防団の装備等について、今後懸念されている首都直下地震に対し、消防団の活動

環境を整えるため、電動タイプの救助器具の配置を推進する。これらの震災対策資器材は、「課題２ ア」で述べた資器材の維持管理を専門にした担当が維持管理することにより、震災時に迅速かつ適切に使用することができる。さらに団本部等を防災拠点として整備する。太陽光パネルを設置し、自己で光熱水を賄い、震災時における消防団員の長期的な活動を支える。万が一に備え、太陽光発電設備で発生した災害に対する対策教養と必要な資器材を整備する。

装備が整っても扱うのは「人」である。統制がなくては、組織は成り立たない。団本部の下に、新たに安全管理や訓練方法の企画立案、資器材の管理等を行う専門の部署を設けることにより、今後の消防団の活動環境は大きく改善されると思料する。

8 まとめ

本委員会において、検討していただいた課題とその方策を踏まえ、品川区消防団員のより実践的な訓練や効果的な教育を推進することにより、技術・知識の向上をはかり、各種災害から地域を守る「地域防災の要」として、住民の負託にこたえていくが可能であると考える。

また、消防団の組織力を向上させるためには、一定の団員数を確保し続ける必要があり、入団促進を図るためにも、地域住民に消防団の活動を一層理解してもらうとともに、消防団活動を地域への貢献とやりがいとして捉え、消防団員のモチベーション向上につなげる事も重要である。

今後30年の間に70パーセントの確率で発生すると予測されている「首都直下型地震」における地域の被害軽減のために、地域に精通した消防団の力は必要不可欠であり、特別区消防団は災害活動能力を更に高め、同時多発的に発生する火災や各種災害に備えなければならない。

本委員会の検討結果を活かし、人材確保に重点を置いた組織の活性化と活動環境の改善を続けていくことを要望し、答申とする。